

第546回 役員会(臨時) 議事概要

- 1 日時 令和4年5月30日(月) 9時29分～10時03分
- 2 場所 Zoom会議
- 3 出席者 構成員7名：
牛木学長，川端理事，坂本理事，澤村理事，末吉理事，西田理事，塚本理事
陪席者3名：
富田特命理事，田代監事，逸見監事

4 審議事項

(1) 職員就業規則等の一部改正について

職員就業規則等の一部改正について、資料1に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

(主な意見及び質疑等)

・なし

(2) 令和4年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業の申請について

令和4年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業の申請について、資料2に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・本事業への申請内容について、5ページ目のポンチ絵としてまとめているが、インパクトが弱い印象である。
- ・未来共創推進機構の推進体制の強化としているが、どこが強化されており、本事業によりどう強化されるのかが、当該機構の設置の図中で表現されていないように思う。
- ・当初は、未来共創推進機構とイノベーション推進機構との2つを強化することも検討したが、地域系を強化することなので、現在の形になっている。
- ・共創スペースの在り方やどこまでが新潟大学が行うことで、そこに対して地域等がどう関係してくるかが分かりにくいと思う。
- ・本来はそれぞれのプロジェクトの中にテーマと地域と自治体ということを書きたいが、現状はプロジェクトが並んでいるだけに見えてしまっている。
- ・この未来共創推進機構を設置し、プロジェクトをマネジメントする人材を配置して運用していくということがメインの内容となる。組織図については、検討することとしたい。
- ・本申請書の図については、地域の特徴を伸ばすということだと思いが、重点6領域については、本学の目線であるように感じるため、地域の特徴を伸ばす内

容や、地域の課題を解決するという内容があっても良いと思う。

- ・ 7ページの本文も含め、何に対する重点6領域なのか分かりづらいと思う。これが、本学が考える重点6領域であるとした場合には、新潟県や地域が考えるものとの違いがはっきりさせたほうが良いと思う。
- ・ 全体的には、本学のどの分野が強く、どこに力を入れており、どの程度の外部資金を獲ってきたという内容は記載されているが、その先として、どう活性化させ、どう強化していくかについて表現されていないように思う。
- ・ 遠隔医療領域について、ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがたの特定基金を集めたという実績はあるが、遠隔利用の具体的なコンテンツとしては弱いので、記載の仕方を工夫しても良いと思う。
- ・ 今後の遠隔医療の展開するプロジェクトとして地域医療 DX 共創 IP という記載にしているが、強みとしての遠隔医療については、広い領域をカバーしている医療ネットワークということになると思う。
- ・ 現状で達成できていることを記載するというのであれば、地域と一体化した拠点としての医療の運用システムについては、実績として出せると思う。そして、次のステップとして、それに ICT や DX を絡めて達成していくということにすると良いと思う。
- ・ 組織的共同実績の特色があるというところに、遠隔医療があると違和感があるように思う。
- ・ 組織的地域医療ということにするのも良いと思う。
- ・ 本学と自治体が一体となった医療の展開はできており、その上で、ICT や DX を絡めていくのが良いと思う。また、コロナ禍での実績としては、新潟県の人口あたりの死亡者数の低さなどが挙げられると思う。
- ・ 外部資金獲得額増加に係る実績の項目において、採択された事業が多くないという記載は無くても良いと思う。また、本事業の政策的効果の項目において、新潟県の重点計画があり、本学がどこを手伝って、そうすることでどう伸びていくという内容や、大きな期待を受けているというような前向きな記載のほうが良いと思う。
- ・ ポンチ絵に新潟大学らしい雰囲気がないので、整理が必要だと思う。